

「江別市かわまちづくり計画(案)」に対する市民意見公募の結果と市の考え方

令和4年4月

江別市経済部商工労働課

■意見の募集結果

募集期間	令和4年2月15日～令和4年3月14日
提出者数	5人
提出件数	9件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
1	<p>いうまでもなく、江別市は夕張川と千歳川が一級河川石狩川と合流する自治体です。「江」が「別れる」という自治体名からも明らかです。自治体のはたすべき役割として、住民の方がそうしたことの認識が備わっているかを確認することも重要です。たとえば合流地点に近い江別地区の住民の方であれば、川は身近な存在かもしれません。しかし、野幌地区や大麻地区の住民で、とりわけ住み始めてまだ間もない方というのは、江別市は単なる札幌のベッドタウンとしか思っていないかもしれません。市民全体と自治体とを結びつける試みがなされることを期待しています。</p>	<p>市では、誰もが参加可能で、かわまちづくりについての理解を深めていただくことや市民などから幅広い意見を伺う場として、かわまちづくり勉強会を定期的に開催しております。これまでのかわまちづくり勉強会では、市内の河川の概要や千歳川の堤防整備内容などの説明をいたしました。今後も市民全体にかわまちづくりを知っていただけるよう取り組みを進めてまいります。</p>	B
2	<p>昨年江別に36年ぶりに戻って来て、条丁目の現状が気になり途中から入りました。</p> <p>その時に条丁目の現状を知りたいので世帯数や人口に店舗のことを知りたいと尋ねたのですが、「かわまちづくり勉強会」には直接関係ないというようなことで教えてもらえなかったのは残念でした。それでも参加したのですが、やはりこの事業の目的は、岡田倉庫のある会社通りや千歳川だけの話だけではなく、条丁目全体にかかわる勉強会であると理解しました。ところが市は観光ありきの発想で、条丁目の現状とか将来構想について何も考えていないかのように見えました。年配の参加者は、衰退した条丁目を何とかしたいとの思いがあって参加しているようなのに行政側の思惑は、違っているようです。</p> <p>「定住と交流のまちづくり」ということから考える過疎の町がありますが、江別の場合は、人口減少で悩んでいる地域と異なります。むしろコンパクトシティにふさわしい地区だと考えています。条丁目の中に店舗が少なくなった理由を考え、現在住んでいる人たちやこれから定住する人たちが、暮らしやすい街づくりを考慮した構想をはかってもらいたいです。国の補助金をあてにした事業構想ではなく、条丁目をどうするかを江別市独自で考えそれに該当する補助金を探し出してみることが必要なのではないのでしょうか。</p> <p>最後に、かわまちづくり勉強会と銘打っていたので、条丁目を含んだ江別の自然環境や歴史風土について学ぶことができるのではないかと期待していたのですがね。残念です。</p>	<p>江別市かわまちづくり計画(案)では、かわまちづくり協議会とかかわまちづくり勉強会での議論を踏まえ、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することで、地域に愛され、観光客等の外部の人間にとっても魅力的なまちを目指すことを基本方針としております。</p> <p>ご意見のとおり、市としましても江別の自然環境や歴史風土など、江別の特色を踏まえて、かわまちづくりを進めてまいりたいと考えております。今後もかわまちづくり勉強会などで、江別の現状や先行事例の紹介など、かわまちづくりについての理解を深めていただく取り組みを行ってまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3	<p>以前から「江別市かわまちづくり計画」について目にしておりましたが、新聞や広報誌などで計画があることくらいしか知りませんでした。今回パブリックコメント募集ということで、以前から興味があったのでご意見申し上げます。</p> <p>私は趣味で「カヤック」をやっています。特にカヤックで川を下る「ダウンリバー」をメインに行っています。近郊であれば千歳川（第一ウサクマイ橋～千歳スポーツセンター）ですが、札幌・江別近郊ではなかなかダウンリバーカヤックを楽しめるスポットが少ないように感じています。川から見る景色は普段見る景色とは全く違って見えます。そのため気軽に川下りを楽しむことができる「カヌーポイント」を江別市内を流れる河川で整備してくれることを切に望みます。またダウンリバーカヤックには「回船作業」が必要となるためスタート地点とゴール地点を陸路で結ぶ公共交通機関（バス路線）の整備なども併せて行って頂けると多くの方が川下りを楽しめると思います。</p> <p>残念ながら私は4月で江別市民ではなくなりますが、川下り愛好家が集まる場所に近い自治体に引っ越します。川下りを色々楽しんで江別市の「かわまちづくり計画」の参考となる知見を身に付けてきたいと思しますので、今後江別市でもダウンリバーカヤックなどが楽しめる環境の整備をご検討頂けると幸いです。</p>	<p>これまでのかわまちづくり勉強会での議論においても、ソフト施策としてカヌーやクルージングの実施についての意見が出されております。ご意見を参考とさせていただき、千歳川の水辺空間を活用したイベント・アクティビティプランの検討を進めてまいります。</p>	C
4	<p>他の歴史的建造物の保存・活用について</p> <p>「当時の隆盛を語る外輪船（旧岡田倉庫）等の歴史的建造物が多く残っています」（「⑤市の特色」とあるが、実際のところ条丁目地区で歴史的建造物といえる建物は、二桁に満たなくなっている中で、近年、旧岡田倉庫と同じく、千歳川堤防整備予定地内に所在する舟運に関わる歴史的建造物が次々に取り壊された。</p> <p>「歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備」（「4. 整備の必要、有効性」）するためには、一つの建物にとどまらず「群」として歴史的建造物を残していくことが必要と考えるが、これらの建物について、保存・活用に向けた検討は行われたのか。</p>	<p>千歳川の堤防整備につきましては、地域住民の生命、財産、歴史的建造物を含む街並みを水害から守るため、必要な整備であると考えております。今回の堤防整備に併せたかわまちづくりでは、外輪船（旧岡田倉庫）を河川空間の利活用拠点と位置付け、歴史的景観を活かした水辺の整備及びまちづくりを進めることとしておりますことから、歴史的建造物の保存・活用についても、引き続き検討してまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
5	<p>旧岡田倉庫の移設先について 「かわまちづくり」の核となる歴史的建造物が旧岡田倉庫である。この建物は築堤整備工事に伴って移設されることになっているが、肝心の移設先については計画案に全く触れられていない。そこを具体的に示したうえで計画案を提示すべきだと思うが、「江別市かわまちづくり協議会」に提示された資料によれば、隣接する住宅を取り壊した跡地への移転が検討されている。</p> <p>しかし、その住宅も大正年間建築の歴史的建造物であり、とくに旧岡田家住宅側に残っている石積みの防火壁と卯建は道内では非常に珍しく貴重なものである。一つの歴史的建造物を残すために、別の歴史的建造物を壊すというのは本末転倒と思えるが、何か対策は考えられているのか。</p>	<p>旧岡田倉庫の移設先については、千歳川とのつながりを考え、現在地周辺の土地に移設することが望ましいとのかわまちづくり協議会での協議結果を踏まえ、地権者との協議を経て決定いたしました。</p> <p>また、かわまちづくり協議会での協議においては、旧岡田倉庫を十分活用するために、旧岡田邸の保存に向けた検討及び旧岡田邸と一体とした利活用方法の検討を行うことが必要とされております。</p> <p>移設先地内での旧岡田倉庫の配置等を考慮すると、移設先地内に所在する建物の解体は免れない状況ですが、歴史的景観を活かした水辺の整備及びまちづくりを進めるため、歴史的建造物の保存・活用についても、引き続き検討してまいります。</p>	C
6	<p>旧岡田倉庫の文化財指定と原形保存について 市は、旧岡田倉庫は他の歴史的建造物とは異なり、市指定文化財になっている特別な建物だから扱いも異なるという認識かもしれない。であれば、移設にあたっては、文化財保護の原則に基づいた対応がなされるべきである。</p> <p>文化財保護の上で最も重視されなければならないことは「原形の保存」である。したがって、建物を文化財に指定するということは、その建物を可能な限り創建当時に近い状態で残すということではなければならない。</p> <p>旧岡田倉庫はアートスペース外輪船として活用する際に、内外装の一部に手を加えている。指定の際には、種々の理由で難しかったとしても、改修や移築工事を行う際には、あらためて専門的な調査を行ったうえで、原形に復するための対応が図られてしかるべきと考える。</p>	<p>かわまちづくり計画(案)では、旧岡田倉庫を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置付け、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信することを目指しております。</p> <p>旧岡田倉庫の移設先については、旧岡田邸との関係及び歴史的建造物の価値は保たれるよう検討しており、今後は、かわまちづくりの様々なアクティビティにも活用されるよう検討してまいります。また、「原形の保存」につきましても配慮して検討してまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
7	<p>文化財や古建築の専門家の計画づくりへの関与について 本計画案を策定するにあたって一番の問題点は、文化財や古建築の専門家を交えた議論が行われていないことである。「江別市かわまちづくり協議会」は、これまで5回にわたって開催されたというが、協議会のメンバーにそうした分野の専門家はいない。</p> <p>市文化財保護委員会に諮ってきたと言われるかもしれないが、年1・2回程度の委員会で議論が深められてきたとは到底思われぬ。</p> <p>歴史的建造物の扱いをめぐることは、まずもって専門的見地からの評価が不可欠である。その結果、保存すべきという結論になる場合もあれば、解体やむなしの結論に至る場合もあるだろう。しかし、問題はそうした評価が行われることなく、いろいろな思惑の中で歴史的建造物の行く末が決定されていっているという現状である。</p> <p>今後、かわまちづくり計画の具体的な実施にあたっては、文化財や古建築の専門家を直接交える中で進めるべきと考える。</p>	<p>江別市かわまちづくり協議会の委員については、旧岡田倉庫の利活用方法等及びかわまちづくりの検討に必要な学識経験者、自治会、経済やまちづくりに関係する団体及び市民公募からの選出により構成されております。また、委員のほか、専門的な助言を受けるため関係機関、文化財担当部署等の市の関係部局にも出席を求めています。</p> <p>今年度は、旧岡田倉庫の利活用方法等を検討するため、隣接している旧岡田邸の調査及び歴史的価値の評価を「特定非営利活動法人 歴史的地域資産研究機構」に委託して実施しております。調査には、江別市文化財保護委員会の委員長にも参画いただいております。</p> <p>今後もかわまちづくりの具体的な検討を進めていくにあたり、必要に応じて専門家への協力依頼を検討してまいります。</p>	B
8	<p>組織体制の立ち位置について 2021年10月の「かわまちづくり勉強会」の席上で、「かわまちづくり勉強会」の主催者は誰なのか？と質問したところ主催者は江別市経済部であるとの回答があった。</p> <p>私は「かわまちづくり協議会」の下部組織的な存在と認識していたが、「かわまちづくり勉強会」と「かわまちづくり協議会」は江別市経済部を挟んで並立した存在であるとの回答があった。</p> <p>2021年11月の「かわまちづくり勉強会」でも再度確認したが、江別市経済部から「かわまちづくり勉強会」は「かわまちづくり協議会」の下部組織ではなく、並列的な存在とはっきりと回答をいただいた。</p> <p>しかし、「江別市かわまちづくり計画書(案)」5Pの【協議会・勉強会の発足】の項目に、令和3年1月以降、「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして、「江別市かわまちづくり勉強会」を定期的で開催し、条丁目地区・大川通地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行いました。と記載されている。</p> <p>以前の江別市経済部の公式回答では「かわまちづくり勉強会」は、江別市経済部への意見収集組織としての位置づけと理解させられたが、矛盾することにはならないだろうか？</p>	<p>かわまちづくり協議会は、かわまちづくりの内容を審議するために地元の方々の考えを広く聞いていくことが必要であるとの認識から、当時すでに江別河川事務所の主催で開催しており、かわまちづくり協議会の委員も参加しているかわまちづくり勉強会と連携して、課題を検討することといたしました。</p> <p>そのために、かわまちづくり勉強会をかわまちづくり協議会のワーキンググループとして位置付けを行いました。</p> <p>かわまちづくりの組織体制につきまして、不明確な説明がありましたこと深くお詫び申し上げます。</p> <p>今後もかわまちづくり協議会及びかわまちづくり勉強会での議論を基にかわまちづくりの具体的な検討を進めてまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
9	<p>既存の組織活動への敬意と協調について 今回の「江別市かわまちづくり計画書(案)」の中心になっている「アートスペース外輪船」は、北海道内に残された古い建物を整備し、舞台芸術をはじめとする様々な文化活動の創造・発表の場として活用することを目的に北海道が推進した「地域創造アトリエ」事業の一環として北海道及び江別市が旧岡田倉庫及び隣接する旧岡田邸の平屋和室を改修し、「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」が平成17年(2005年)から運営してきた。</p> <p>同様に「地域創造アトリエ」事業により整備された施設は他に9か所存在したが、現在も活動を続けている施設は札幌・江別のほか数か所となり、その意味では江別のアートスペース外輪船は大変健闘しているといえる。</p> <p>運営管理の組織体である「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」は設立から17年が経過し、会員もその時間分高齢化している点は「江別市かわまちづくり協議会」でのご指摘どおり事実ではあるが、高齢化自体が問題点とも受け取れる「江別市かわまちづくり協議会」の議論内容はやや敬意に欠けると思われる。</p> <p>さらに問題と思われるのは「江別市かわまちづくり協議会」または江別市経済部が「江別市かわまちづくり計画書(案)」の中心になっている「アートスペース外輪船」を管理運営する「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」に対して今日に至るまで公式に何ら状況説明も経緯説明も相談も何も行っていない現実はどういうことなのだろうか？</p> <p>まるで、「江別市が所有する施設なのだからどのように使おうが所有者の勝手！」「相談の必要などない！！」と言わんがばかりの態度だ！</p> <p>このような状態では、「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」としては外野から聞こえてくる様々な情報・噂に振り回されるばかりで「協議会」の会員に対して「協議会」の正確な見解を説明できない宙ぶらりんの状況にしている。全く気の毒な状況だ。このことに関して、江別市は何ら敬意と協調を持つとは考えていないのだろうか？</p> <p>新しいことを始めることはまことに結構であるが、今まで曲がりなりにも活動を続けてきた組織に対し経緯とか尊重といった礼儀は必要なことであると考えます。</p> <p>さらに、今までの活動から得られたノウハウを今後につなげていくためにも既存の組織への協調・協力の精神は必要ではないだろうか？</p>	<p>かわまちづくり計画(案)では、旧岡田倉庫を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置付け、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信することを目指しております。また、旧岡田倉庫の利活用については、現在かわまちづくり協議会及びかわまちづくり勉強会にて検討、議論を継続しております。</p> <p>ご意見のとおり、これまで旧岡田倉庫の運営を担っていただいた旧岡田倉庫活用民間運営協議会をはじめ、地域の様々な組織がその活動から得られたノウハウはかわまちづくりを運営していく上で非常に重要なものであると認識しております。</p> <p>かわまちづくりの運営体制など具体的な方策は現在議論、検討を重ねているところでございますが、かわまちづくりを進めるにあたっては、既存の組織との協調・協力を努めてまいります。</p>	C